

ぴたらファーム 通信

●畑の状況

夏は空気中に水蒸気が多い為、空がガスることが多いですが、この数日朝がすっきりとしていて山々がくっきりと望めます。そんな日は野菜の色もよりはっきりと絶妙な色の違いが見えます。トマトの熟し始めの卵色から食べごろを迎え真っ赤になるまでの微妙なグラデーション、同じ赤でも鈍い色味でシックな紅オクラの赤。インゲンの萌黄色、きゅうりの常盤緑。眩しい日差しの下で見るせいなのか、どれも色から元気さを感じます。夏真っ盛りの中で、秋のことや冬の計画という、少し気が早いようですが。農家は常に一步先の季節を考えて畑を準備していきます。先週から、秋のアブラナ科類キャベツ・ブロッコリー・カリフラワーの種まき、そしてたくさんの人参を蒔きました。人参の種は、縦長で縞々した溝があり独特の香りがあります。私はこの種の人参の香りが好きです。人参の独特な香りよりも少しフローラルな感じ、小さい種ながら自己主張の強さを感じさせるあたりも好きなのかもしれません。人参は日の光が好きで乾燥が嫌い。被せる土の量、そして乾燥させないように、地道にジョウロで水をまくなど、要所要所で気を使います。まばらに生えてくるひょろとした人参の子葉はとても頼りなげで、人参の収穫を迎える秋まで、見えない土の下でどのくらいの大きさになっているかわかりません。だからこそ収穫の驚きや感激はひとしおです。もうじき、白菜の種まきがあり、大根の種まきがあり、そうこうしている内に秋になります。ぜひ、夏が終わる前に元気色全開のぴたらの畑にお越しくださいませー♪

by 彩華（畑・こかぶ犬担当）



●ぴたらぶ田んぼ

今年から挑戦している田んぼの合鴨くん、かなり大きくなって雌雄の区別もつくようになってきました。それでもまだまだピヨピヨ鳴いて餌をねだる様子は幼ない雛です。それなのに彼らのお勤めは終了秒読み。稲に穂の付く前（なんと来週末のオープンファームで！）に田んぼから引き上げになります。近所でアイドル的な存在になっていたの、引き上げ後もご近所の方が見られる場所に飼いたいですね。by 泰斗

●ぴたらなレシピ 25 トマトのシャーベット

あっつい！ですねっ！！！！ぴたらファームがある白州町横手は標高が高い（約700m）ので甲府や東京と比べるとだいぶ涼しいはずですが、それでも日中畑仕事をしていると、シャツから何から汗びっしょり。冷たい物の食べすぎが体にあんまり良くないのは百も承知ですが、でも暑さに負けて冷たい物でクールダウンしたくなります。というわけで、ぴたらのトマトを使ったシャーベット。トマトを皮がついたままビニール袋に入れて冷凍します。一晩くらい入れっぱなしでコチコチにしてかまいません。冷凍したトマトを水に入れると、すぐに皮が破けてつるん！と簡単に剥けます。皮を剥いてヘタを取ってざく切り（割と簡単に切れます。でもやっぱり刃物には注意）にし、フードプロセッサかバーミックスでシャーベット状にします。このときレモン汁を入れます。お好みでてん菜糖とかいれてもいいです。私は（あれば）アガベシロップを入れます。シャーベットがちょっと融けすぎちゃったかな、と思ったら冷凍庫へ入れて再度凍らせます。トマトの酸味が利いて美味しいですよ！ヽ(´ー´)ノ by ちはる





<コラム:東京発スローライフ⑫> おおかみこどもの雨と雪

このコラムは東京でファームの運営を担当している大樹が書いています。

細田守監督の三作目の作品となる「おおかみこどもの雨と雪」というアニメ映画を観てきました。人間と狼に相互に変身できる二人の子どもが成長する過程を描いている作品。狼に変身できる子などがいれば、当然ながら、都会では生きていくのが大変で、母親は人里から離れた過疎のような山里に住む場所を選びます。

人が住まなくなった古民家を手入れして住み、イノシシが出てくるような耕作放棄地を耕してどうにか野菜づくりを始めます。この田舎暮らしの風景は、白州のぴたらファームにも近いものを感じます。ぴたらファームは人里に近いところにあるのですが、さらに山間に入っていけば、この映画のように、人よりも動物のほうが近いという暮らしになっていくと思います。

この映画では、狼⇄人間を行ったり来たりする子どもたちの苦悩以上に、親の子どもへの愛情の深さと、その愛情があるからこそ自立して育っていく子どもたちの姿を主題として描いています。細田監督の第二作目の「サマーウォーズ」もゲームの世界を取り上げながら、主題として大家族の絆を描いていました。今や希薄となりつつある、人と人との関係にフォーカスして、その素晴らしさを再度伝えたいというのが細田監督の狙いなのかもしれません。

映画の中で、母親は子どもたちを見守りながらも、子どもの意思を尊重して、干渉しすぎないようにしています。そのおかげで子どもたちは、自ら物を考え、自ら行動するようになっていきます。いつまでも子どもを手元において、細かな世話までしてしまう現代の親と一線を画しているのかもしれない。

ルソーは、教育書「エミール」で、農村で育った子どもははっきりとした意思表示ができるようになって書いています。都会で育つとはっきりと話さなくても周囲がくみとってくれるけれど、農村では親が畑に出ていて、大きな声を出さないと気づいてもらえない。場に適応して、子どもは変わっていくわけです。

(運営担当/大樹)



<<ファームからのお知らせ>>

●野菜セット次回のお届けについて 隔週の方⇒8月18日(土)、毎月(第1週)の方⇒9月1日(土)

●野菜セットの代金お支払い方法について

- ・定期(毎週 or 隔週 or 毎月)⇒月末にE-mailでご請求いたします。
- ・お試し1回注文 ⇒野菜セットのボックスに請求書を同封します。

●ファームのお米とお味噌が送られてくる! ぴたらぶ会員(会費1万円/年)募集中!

●ファームのスケジュール 8/11-19 オープンファーム(ピザづくり等) ※詳細はHPにて

●野菜の品質について

ぴたらファームでは、収穫・送付時にチェックを行って野菜を万全の状態でお届けしています。しかし、無農薬栽培のため、虫の混入や運送時の温度条件等により野菜に傷み等が出てくる可能性もあります。もし、そうした野菜がございましたら、どうぞ、遠慮なくご連絡ください。次回の送付時に代替りの野菜をお送りします。

また、野菜セット全体にご不満のある場合には、代金はいただきませんのでご連絡ください。

ぴたらファーム

~自然循環型のオーガニック・ファーム~

〒408-0313 山梨県北杜市白州町横手 1118



たさいたいと 田才泰斗、あおきさいか 青木彩華、くりやしんご 栗谷真吾、なかの 中野ちはる、かわもりまさみ 川森昌美 (畑担当)、たさいたいじゅ 田才大樹、たさいさとこ 田才暁子 (運営担当)

TEL: 090-2055-3424、0551-35-2793 FAX: 03-4578-1768 pitarafarm@gmail.com http://pitarafarm.com